

【JCJ 賞】

**眞並恭介『牛と土—福島、3.11 その後。』集英社**

何度も福島に通い、立ち入り禁止区域にも入り、行政との直談判の場に立ち会い、牛と牛飼いの闘いの4年間に克明に記してきた渾身のルポルタージュ。殺処分される牛がかわいそうという心情的な意味だけではなく、牛が雑草化する農地を守る役割があることにも気づかされ、研究者が被ばくの中で生きる牛を調査することで今後に活かされる。牛と大地（土）との関わり。牛の死骸が土に還り、草が育ち、牛が食べ、それが糞となり肥料となって土を肥やす。生命の循環の深さと価値を考えさせられる。

【JCJ 賞】

**TBS サンデーモーニング**

1987年開始、今年10月には満29年目に入る。日曜日朝の生放送のワイド番組である。

司会者、関口宏氏の長年のテレビ経験に裏打ちされた絶妙の仕切りが、専門家のシャープな発言を引き出し、視聴者が事象の意味を考える材料や、裏側の姿をも解説する場となっている。

憲法改悪を目指す安倍内閣の姿勢が強まる中で、リベラルな立ち位置を保ち続ける長寿情報番組、サンデーモーニングの存在価値はますます高まっている。

【JCJ 特別賞】

**松田浩氏の長年にわたるジャーナリズム実践・研究活動への貢献**

「闘かってこそその民主主義、闘かってこそそのジャーナリズム」—松田氏のモットーである。新聞記者、労組活動家、メディア研究者として、どんな困難な状況にあっても自ら身をもって実践し続け、多くの仲間を激励し、奮い立たせてきた。1953年、日経新聞記者としてジャーナリストの道をスタート以来、一貫してメディア職場の民主化と現場に根ざしたジャーナリストの職能運動の確立に献身してきた。企業の垣根を越えた連帯と協働、放送現場の闘かにコミットしてきた。日経退職後も大学で教鞭を執る傍ら、ジャーナリストの職能運動・理論の構築、放送制度改革・独立放送行政・公募推薦制など「NHK」問題の第一人者として執筆、講演、実践の先頭に立つ。60年余、ひたむきに権力に対峙するジャーナリズムの王道を歩み続けてこられた全活動に対してJCJ特別賞を贈りたい。